

ゆもちき通信

247号

12月20日現在

子ども会員：126人

正会員：40人

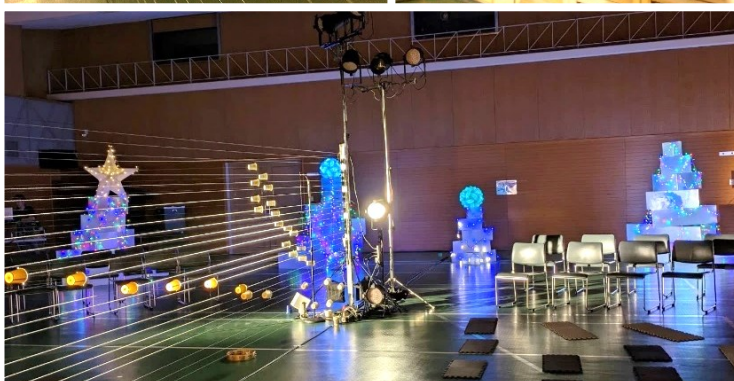
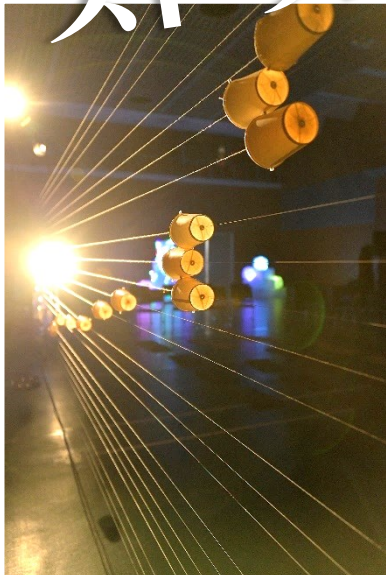
賛助会員：242人

27団体



水嶋一江&

Stringグラフィアンサンプル



しりたがり	02
おとな塾/あなたのイチオシの曲	03
鑑賞部	
～Stringグラフィアンサンプル～	04～05
特集	
～あっぱれ秋のデイきゃんぷう～	06～07
クリスマスケーキをデコろう	08

ゆまもと かずこの

知りたがりやトーク

今年も残すところあとわずか、マジで年末？みたいな陽気が続いたかと思えば、一気に凍えるくらいの寒気が襲ってきたり…と、寒暖の差が激しすぎる今日この頃。みなさん、いかがお過ごしですか？ボチボチ大掃除にとりかかっておられる頃でしょうか。

そんな中、友だちに誘ってもらい、向井理と倉持裕の初タッグとなる舞台『リムジン』を観てきました。コロナ禍を経て、3年越しに再スタートしたこの作品、さてそのお話とは…

主人公の男(向井理)は、小さな田舎町で親から受け継いだ工場を営んでいた。彼は町の有力者である組合長(田口トモロヲ)から、次期組合長になってくれないかと打診される。妻(水川あさみ)と共に喜ぶ男だったが、組合長、友人(小松和重)を含めたグループで狩猟に出かけた際、彼は獲物と間違えて組合長を射ってしまい、けがを負わせてしまう。掴みかけた未来が遠のくことを恐れた男はとっさに嘘をついてしまう。その嘘は次の嘘を呼び…と、こんな感じ。

この舞台、ネタバレすると、その嘘は結局つき通された形で終わります。途中で、組合長に薬莢を手渡したり、友人からお前が犯人だろ？と言われたり、何度となくバレちゃう！って思わせるシーンもあったのですが、誰も最後まで追及しないのです。それぞれの胸中は複雑に違いないけれど、ラストは一見何ごともなかったかのように、日常は流れていく、みたいな場面で終わります。



終わってすぐは、友人と「う～ん、もやっとするね」って話をしていたのですが、日が経つに連れ、“権力の象徴が運転手つきのリムジンだったってことよね！”

“嘘からいろんなことが派生するって、今、話題の自民党の裏金問題はまさにそれじゃん！”

“夫から誤射のことを打ち明けられた時には、組合長に正直に話して謝るべきだ、と言っていた妻が、いざ夫が本当のことを話そうとすると、それをとっさに阻止した場面、自分だったら、どういう行動に出たろう？”

…などなど自分の納得がいくよう、いろんなことを考えています。

私的に、一番好きだったのは、無事組合長に就任した主人公に向けて、友人の妻がスクールバスの署名を役所に持って行ってもらいたいとお願いするシーン。同席していたその夫、つまり友人が「前の組合長なら立場を使ってどうにかしてくれるだろうという思いが働いて、本当は頼みたくないが何でも頼めた。今回、お前が組合長になって何でも言いやすくなったけど、そんなことで汚れてほしくないから、むやみに頼み事はできない。」とのセリフ。世の先生と呼ばれている方々に是非聴いて欲しい！

Nextおとな塾

2月の野村萬斎さんの前に…



狂言の曲目を読んでみる！

【日時】1月17日(水)19:30~

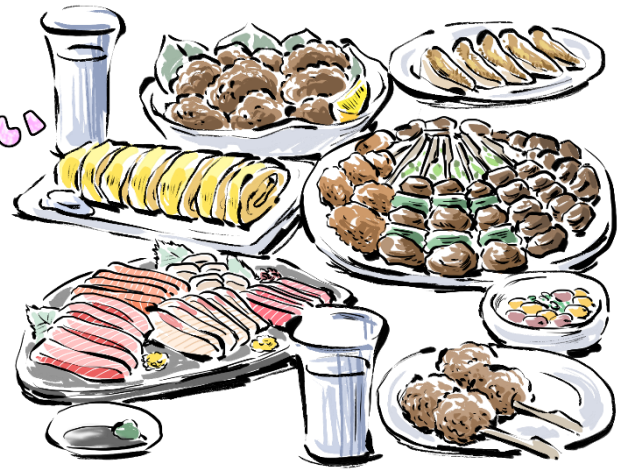
【場所】未定

【参加費】1200円

※事前にお申込みください。

おとな塾

忘年会がっぽーい



机にはシチューに焼き立てのパン、紅はるかの焼き芋、大根なます、サラダ、アップルパイとこだわりの持ち寄り逸品が所せましと並び、乾杯で YYY 忘年会はスタート。まずは料理に舌鼓。美味しいものを食べているとつい無言になってしまいます。

しかし、賑やかでこそ YYY! ということで話題は今年の振り返りへ。YYY としては粛々と進んだ一年だった、コロナ禍が明けたことでイベントがたくさんできた! との声がありました。私生活でも充実した一年になった方が多かったので、久しぶりに旅行へ行けた、おばあちゃんになった、介護の末に親を送り出せたとの声も。気づいたら終わりかけている 2023 年でしたが、振り返ると本当にいろいろなことがありました……。

お腹もいっぱいになってきて宴もたけなわ、というところで来年の抱負を発表。まずは2月の萬斎を満員にしたい! という堅実な目標から、呉で初めての野外フェスを開催してみたい! というビッグな

夢も飛び出します。他にも、東京の秋葉原で推し活をしたい、英会話や社交ダンスが上達したい、亀のように着実にやることをこなす、たくさんのイベントに参加したい、家族も誘ってみんなで旅行に行く、馬車馬のように働く、と様々な私生活の目標も聞かれました。「来年の事を言えば鬼が笑う」とは言うものの、話すと何となく気が引き締まります。2024 年も頑張るぞ! とお互いを鼓舞しました。

来年から次のステージへ進む人も、現状維持の人も、それぞれに目標や希望を持って進んでいることは同じです。2024 年は目標を達成してさらにその先へ進む昇り龍な一年になる予感! (芥川愛花里)

あなたのイチオシの曲
リクエスト
1000



『水嶋一江 & ストリングラフィアンサンプル』を 100 倍楽しむための特別企画として「あなたのイチオシ」の曲を募集したところ 271 件のリクエストが集まりました。公演当日にロビーでお披露目。あなたのリクエストピース見つけれましたか? 『糸』・『戦場のメリークリスマス』『カノン』の 3 曲を演奏していただきました。





水嶋一江 & スtringグラフィアンサンブル

ホールに入ると目にとびこんでくる色とりどりの光。段パネツリーを彩る無数の電飾と、Stringグラフィを照らす数々のライト。高専の建築学科教授に展開図を描いて頂いて作った立体の星もまたたく。

3回目となるStringグラフィ呉公演。Luna2worksの協力を得て、初めて照明を入れ幻想的な会場に！

14時の演奏が始まるや否や「ええ～糸からこんな素敵な音が鳴るの～？」と不思議な感覚になる。まるでダンスをしているかのような演奏者に釘付け！聞き慣れた曲が流れ始めると、歌い出す子どもの姿が。

体験コーナーでは小鳥の音を鳴らしたり止めたり。糸に触れ音が鳴ると子どもたちはワクワク。



夕方の公演は大人の装いで。オリジナル曲『森の記憶』では、木々が揺れる音や風が吹く音を感じ、まるで森の中にいるみたい！Stringグラフィのハーモニーに、魅了されっぱなし。

昼夜ともに、「楽しかった」「良かった」の声を沢山いただき、やったね！コンサート終わりには、キットを買求める沢山の人の姿がありましたよ。（岡本）



音楽がとてもよかったです。たのしかった。クリスマスソングが一番いい曲だった。高いおとがすごかった。紙コップでえんそうするのはすごいとおもいました。小鳥の声のえんそうができてうれしかった。（小学生）

糸の長さで音が変わるのがおもしろかったです。（中学生）

見たことのない楽器でとても奥が深いなと思いました。（高校生）

想像以上にしっかりした、きれいな音だったので驚きました。音の説明をしていただきました。それでも不思議な感じが。とても楽しい時間でした。（50代）

糸と紙コップだけで音が出るなんて、思わなかったです。家に帰ってから作ってみたいと思います。（小学生）

打合せていないのにドレスコードお揃いの若者スタッフ





ストリングラフィを發明!

水嶋一江さんにインタビュー

およそ10年ぶりにお越しいただいたストリングラフィアンサンブル。1STと2STの合い間を縫って、水嶋さんにインタビューさせていただきました。

—結成27年とお聞きしました

1992年に始めたので31年です。私と八重樫、そこへメンバーが加わって、みんなプロとして20年以上。それぞれ違うバックグラウンドがあって。演劇などの身体表現から来た者と、音楽表現から来た者とで、互いに影響し合っています。

—森の中でひらめいたとお聞きしていますが、森の中と会場の違いはどんなところですか?

湿度とかコンディションとか、とてもデリケートな楽器なんですね。屋外で調弦して曲を弾くのは難しいんです。一回一回糸を張って楽器にしますが、森のサウンド、自然の音みたいなものが生まれてくるので、その場所その時だけの音の森を作り出すような。具体的に森で演奏するというより、楽器が生まれた森のイメージを生み出そうとしています。

—印象に残っている会場はありますか?

オーストラリアで2000年にフェスティバルに参加したことがあるんです。アートギャラリーに1週間張って、1日8回コンサートをやるっていうことがあって。東京の丸の内みたいな都心の真ん中、オフィス街みたいな所だったんですね。56回やったんで

ストリングラフィは森の中でひらめいたとのこと、自然の中で演奏を聴くことができたら素敵だなと思っていました。でもストリングラフィは弦楽器の一つ、デリケートな楽器なので野外で弾くことは難しい。だからこそ室内で、風や鳥のさえずる音など森のイメージをつくりだす様な演出を工夫している、と話される水嶋さん。オリジナル曲の『森の記憶』を聴いた時、まさにこれだと感じました。さらに体全体を使って優雅に踊るように、軽やかに演奏ができるのは、日々ストレッチやジョギングでのコンディション作りがあってこそと知り納得しました。

このインタビューで、日々の積み重ねが大事なことを感じ、今日から何度チャレンジしても続けられないラジオ体操を毎日するぞ!と決意しました。(福田)

スタジオイヴのみなさん、照明・音響のLuna2worksさん、スタッフのみなさん、2日間お疲れ様でした。おかげさまで素敵なステージとなりました。阿賀まちづくりセンターの方も、快く色んなことに対応をして頂き感謝です😊 沢山の人の支えられて、舞台は無事終了。ありがとうございました♪♪

次は、2月『萬斎・祐基が誘う狂言の世界』でお会いしましょう(^^)♪ (YYY鑑賞部)



すが、最初はアートが好きの方、日本に興味のある方が聴きにきて、口コミで広がって最後はオフィスアワーを終えたビジネスマンとかファミリーも集まって。マチルダ(『上を向いて歩こう』のようなメジャータイトル)を弾いたんです。会場中から歌声がうまれて、街中を巻き込んで音楽になって、のべ何千人もの方に聴いていただいて。こういった形が、またどこかでできないかなって。日常生活の中で、カフェとか憩いの場所、誰でもちょっとリラックスしに来られるようなスタイルのコンサートがあったら。そういったインスピレーションをいただいて印象に残っています

—購入したキットでもあんな音が出ますか
2週間ぐらいがんばると、かなりこなれた音になりますね(笑) 結構振動を与えることが重要で、耳障りですが、松脂を塗ったときのギギイっていうあれくらいのインパクトを与えると、エイジングっていうんですが、こなれていい音になります。

—購入したキットでもあんな音が出ますか

2週間ぐらいがんばると、かなりこなれた音になりますね(笑) 結構振動を与えることが重要で、耳障りですが、松脂を塗ったときのギギイっていうあれくらいのインパクトを与えると、エイジングっていうんですが、こなれていい音になります。





「大変です！工事で二河峡が使えないかも！」。Yさんからの連絡に衝撃を受け、すぐさまバイクで現地へと向かったのが春。状況が改善していることを願いながら再度訪れた10月初旬に、やっぱり無理だと断念。気持ちを切り替えてつつじヶ丘で「秋のデイキャンプいもにかい」をすることにした。慣れている場所だが、やることが違う。楽しみにしている人の顔が浮かび、例年どおり焼き芋も作りたい…。かまどで作る？いやさすがに100本はむりじゃろ、ファイヤー場で作る？落ち葉や焚き木がないけん、難しい…。色々考えて、夏のキャンプで活躍した鉄板を使ってイモを焼いてはどうかと提案。

11月19日、YYアカデミーで現地地下見会をし、実際に鉄板を使って作ってみることに。薪割も火起こしも練習！するといい感じにイモが焼けた！「塩をちょっぴり振って熱いうちに食べてもらおう！」「袋にスタンプも押すのは小さい子も楽しいよね。」「消しゴムはんこを作ってくるよ！」と盛り上がる。その後も参加者がなかよくなるゲームをしようと事務所に何回も通って準備した今回のスタッフ。こんな試行錯誤や臨機応変がおもしろいし、力になる。その成果を当日の写真とスタッフのコメントで報告します。
(久保直美)



初めていちから火を起こしました。迷子になったかのように不安でしたが火をつけてみると、だんぼうがついている部屋のようにあたたかくて、冷たさがさっとさりました。

そして芋煮のだしをわかしました。具も入れて煮こみました。グツグツ音が楽しくて完成するのが、何か買ってもらうときより待ち遠しかったです。目がとび出そうぐらいおいしかったです。おおもり2回食べました。 さつき(小5)

予報ほど寒くなくて良かった～。担当のカマドはすんなり火が着いた。松葉とYYアカデミーでの特訓の成果！順調すぎてカマド体験をしに来た子がすることがない！でも大丈夫。足りてるケド、薪割ってみようか！と即興の薪割り体験にマッチの擦り方教室も始まった。アカデミーの子がお手本を示し、大人が補足。横で私もフムフムとこっそり学習。いろんな人の話を聞いて毎回学びがあるのがいいところ。そうこうしているうちに美味しい豚汁の出来上がり。お腹いっぱいになったら、いよいよレク！みんな体いっぱい表現してくれた里山じゃんけん、大人も全力疾走の玉入れ。最後の山分けは、



ちょっと難しいかな？でもなかなかこんなことできないよねと、あえての挑戦。帰りに玉入れのカゴをちびっ子たちがニコニコ背負って記念撮影しているところを見て、楽しんでくれたんだなとホッコリ笑顔で終わった1日でした。全力で楽しんでくれた皆さんに感謝！（阿部）

私事だけど…すすで真っ黒の鉄板を今回初めて洗った。魔法の液体こと、酢をぶっかけるとすすが流れるどころか酢の玉がコロコロと転がるばかり。なんじゃこりやとしばらく呆然と眺め「こんなに長くスタッフやってるのに洗い方がわからんって信じれん」とショック。夏に奈良から参加したチカちゃんが子ども達に教えてたの、思い出してやってみた。元々が黒い鉄板、どこまで洗えば?とやっているとツヤが出てきた。代わりに私の手はズルっと真っ黒に。手が汚れるのも(特に爪の間)服が汚れるのも嫌いな私。次の日会社で「どしたん、その指えらい黒いじゃん、子どもでもあるまいし」と驚かれたけど「なかなかヤバイじゃろー」と私は手を広げてニヤけた。嫌いなことをやってみて、成長したねえ、と自分をほめて大満足。いい歳だけどまだまだちょっぴりずつ進化していきます。(上田)



毎年、芋煮会は二河峡に歩いて行って行きましたが、今年はずつヶ丘。どうなるのか?と思いましたが、アカデミースタッフがアイデアを出し、いつもと一味違いました。レクの里山ジャンケンと里山玉入れは子どもから大人までが、楽しめました。参加した子ども達のはたらきのおかげでさつま芋の入った具たくさん豚汁が出来上がりみんなで美味しくいただきました。(しろくま)



デイキャンプで司会して見えた景色は…。「子どもたちが会議でタケノコキノコって盛り上がったから、これだけはやらんといけんのよ」と普段より熱い屋敷さん。各チームで中心となって、とっても頼りになるアカデミーの小学生たち。みんなを盛り上げようとしてくれるYYYスタッフ。勝負は1回なので本気&全力で走りまわるみんなと終わった後の「つかれたー」と、でもスッキリした顔。

参加者としてでは見えないものが見えるのでわいわいアカデミー&レクの司会、おすすめです☆ (久木田)



今回1番おどろいたことをしようかします。里山ゲームの時、私はかごをせおう役になりました。最初はふつうに走るつもりだったのに、思わずダッシュでにげてしまいました。「よいスタート」の声とともに後ろから敵チームの本気の大人がボールを持って追いかけてきたからです。まるで巨人!えものにはがさないハンターのように見えたのです。走り終えた結果、私のチームは2位でした。くやしかったけど大人まで本気にしてしまうゲームをYYYのみんなで作れたことがなんだか嬉しかったです。 みゆき(小5)



デコ券を手に、飾りを選んでいく目は真剣そのもの。材料をテーブルに持ち帰ると、みんな迷わず、デコレーション。いつもは走り回っている男の子たちも、自分のケーキ作りは一生懸命。家に帰ったら、一人でまるごと全部食べるらしい(笑)

「こっちに来て～」と声がかかる。そうそう自慢のケーキは見たいよね。「トナカイです」「ソリだよ～」「クリスマスツリーのイメージ！」なかには「恐竜！」っていう人も。創作後にみんなで見て回ったとき、パティシエたちは自分の作ったケーキについて嬉しそうに語る。ちゃんとコンセプトやイメージがあることにビックリ！いやいや、ブッシュドノエルをつくる会だったはずだったんだけどねと苦笑しながらも嬉しい。

み～んな、できあがった作品が崩れないように、そうっと容器に収めていたよ。(くぼ)



トッピングを悩むのも楽しいよね～



■発行日:2023年12月25日(毎月1回発行) ■発行責任者:米本美千恵
 ■発行元:特定非営利活動法人 呉子どもNPOセンターYYY 〒737-0051 呉市中央3丁目11-12PANビル3F
 ■連絡:0823-24-5646 ■WEB:http://kure-yyy.org